

事務所コラム

2016年10月31日(月)

〒133-0052 東京都江戸川区東小岩 6-3-8 1F

税理士法人海老原税理士事務所 TEL 03-5612-1821 FAX 03-5612-1822

Email reiko@ebihara-tax.jp

棚卸資産の決算作業

共通する付随費用の配賦方法

棚卸資産の付随費用の配賦計算

種類の異なる棚卸資産を購入した場合、共通する付随費用を期末棚卸資産に配賦しますが、手間のかかる決算作業の一つです。

その配賦の「やり方」としては、具体的には、次のような方法が考えられます。

- ① 購入代価の比で按分する方法
- ② 購入数量の比等で按分する方法
- ③ 購入代価の大きなものだけに一定基準により配賦する方法
- ④ 付随費用を期末時に一括して売上原価と期末棚卸高の比で按分し、期末棚卸高に加算すべき金額を計算する方法

購入代価の比で按分する方法

一つの例で考えてみましょう。

【設例】購入代価 (計 2,000,000 円)

商品A (500 個) 750,000 円

商品B (500 個) 1,000,000 円

商品C (250 個) 250,000 円

付随費用は 120,000 円 発生(内訳：引取費用 40,000 円、買取事務費・検収費 32,000 円、支店までの運送費 48,000 円)

この場合、買取事務費・検収費と移送費用で購入代価の 3% 超であるため、これらも取得価額に配賦しなければなりません。

①の方法によれば、商品Aの取得価額は

次のように計算されます。

購入代価 75 万 + 付随費用の配賦額 4.5 万
(12 万 × 75 万 / 200 万) = 795,000 円

購入数量の比等で按分する方法など

②の方法によれば、商品Aの取得価額は次のように計算されます。

購入代価 75 万 + 付随費用の配賦額 4.8 万
(12 万 × 500 個 / 1,250 個) = 798,000 円

③の方法として、例えば、商品Cに配賦しない場合には、商品Aの取得価額は次のように計算されます。

購入代価 75 万 + 付随費用の配賦額 51,428 円
(12 万 × 75 万 / 175 万) = 801,428 円

最後に、期中の仕入購入代価の合計を 1,000 万円、期中に発生した付随費用を 80 万円、期末棚卸高 200 万円 (うち商品Aが 75 万円) と仮定した場合の④の方法では、商品Aは、次のように計算されます。

イ 80 万 × 200 万 / 1,000 万 = 16 万 (期末分)
ロ 購入代価 75 万 + 配賦額 6 万 (イ × 75 万 / 200 万) = 810,000 円

これらのうち、一つの方法を每期継続適用し、種類、品質、型等の異なるごとに、各棚卸資産に配賦することになります。



あくまでも共通する
付随費用の配賦方法
です！